

## 令和5年度大津市青少年問題協議会 会議結果

### 1 開催日時

令和5年10月11日(水) 午前10時から午前11時30分まで

### 2 開催場所

大津市役所 新館大会議室

### 3 出席者

委員9名

中谷委員、若林委員、秋永委員、福井委員、渡部委員、竹内委員、島崎委員、  
後藤委員、内田委員

(欠席) 西澤委員

事務局4名

子ども未来局長、子ども・若者政策課長補佐、子ども・若者政策課主幹  
子ども・若者政策課係長

### 4 傍聴者

なし

### 5 次第

別添次第のとおり

### 6 会議概要

開会

定刻どおり開会され、子ども未来局長から挨拶がなされた。

欠席委員は1名であり、9名の出席があり、会議が成立することを報告した。

議事

議事 次第(1) 大津市子ども・若者総合相談窓口、子ども・若者支援地域協議会の実績  
について

(2) 大津市子ども・若者支援計画進捗状況について

資料1、2について、事務局から説明

(質疑なし)

議事 次第（３）次期子ども・若者支援計画策定に係るアンケート調査項目について  
資料３について、事務局から説明

<委員>

問題を抱えている人に回答をいただかないと分析が出来ないのではないか。

無作為抽出ならば回答者の中に問題を抱えた人が何割いるかわからない。わずかな人数では調査が有効になると思えない。

問題を抱えている人を対象に調査を行う方がいいのではないか。

問題のない人からの調査で、何を読み解こうとしているのかわからない。調査のための調査になってはいけない。

<事務局>

全体の中でどのくらいの方が問題を抱えておられるのか、困難な状況におありなのかということについては、無作為抽出による調査で出てくるものと考えている。調査の中で課題を抽出していきたい。今回追加した少子化対策や意見表明というような項目は、問題を抱えているいないに関わらずご意見をいただけたところだと思う。また１５歳から３０代の中でも、各世代によって課題、現状を出すこともできると思う。当事者のご意見をどのようにお伺いするかは、今後機会を捉えて実施していきたい。

<委員>

問１６「あなたは小学生や中学生の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。」の選択肢に夢や希望、チャレンジしたことも入れては良いのではないか。

問１１「学生におうかがいします。あなたは、学校の放課後、主にどこで過ごしていますか。」の「放課後」という表現は中高生をイメージしてしまう。大学生の回答者も多いので変えた方がいいのではないか。

問１９の１５番の選択肢「たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい」は、「親にほっておかれたくない」という意味の言葉を入れるのがいいのではないか。

<事務局>

問１６については課で選択肢を検討する。具体的な選択肢があれば指摘いただきたい。

<委員>

問１６はどのように活用されるつもりか。課題があるということ把握したいということなのか。

<事務局>

現状把握と、経験が今の困難の状況に影響しているかをクロス集計していくことになると思う。

質問内容的には経験と困難な状況を見るような項目になっているので、プラスの印象になるような選択肢をたくさん入れることは難しいかもしれない。学生の頃のマイナスの経験を中心に聞いている。

問11の学生については、15歳から39歳までの方への調査になるので、学生については、高校大学等を想定している。放課後については文言を検討する。

問19についても内容を検討する。

<委員>

ネガティブな選択肢が並んでいるが、基本的には回答者が問題を抱えていない方が多いので、プラスの内容がいかにか彼らを支えてきたかというような意味でも活用できると思う。

<委員>

15歳から39歳までの人口が一番多いので配布枚数の割合を一番多くすべきではないのか。回答率が低い原因は、アンケートを読んで、自分には関係ないと思って回答しない人や、これだけの項目に回答するのは面倒くさいと思う人が多いのではないのか。回収率を上げるために特典があるといいのではないのか。

15歳から39歳までの若者が抱えている問題は本当に根深い・非常に闇深いところが多い。このアンケートでは判断できない悩み・問題がある。今相談されている方の問題を一つ一つ潰していく事も重要だと思う。このアンケート以外のところも積極的に取り組んでほしい。

<事務局>

前回の調査の時に、次世代育成支援行動計画と子ども・若者プランという計画を一緒にして一つの計画にしており、配布2,000人はその中で決めている。配布枚数は変えられないが、今回回収率を上げるためにWeb回答を選べるようにしたいと考えている。

回収率25%は少ないが、全国的にも若者のアンケート回答率としては、20~30%が多い状況のため、平均的な回収率ではないかと思う。

回収率を上げるために何か特典がつけられないかということについては、他でもご意見をいただいているが、今回、人と紐づけない回答になっており、誰が回答したか分からないため、回答した人に特典をつけるのは難しい。そういったご意見については、今後考えていきたい。

<委員>

答える側からすると、回答がどこに飛んでいくか非常に分かりにくい。そうなるなら「これならやめてしまおう」となってしまう恐れがある。

<事務局>

今回の資料は案で、皆様のご意見をいただいて、今後回答しやすい形に直していく。この後直していく予定をしているので、いただいたご意見を参考にさせていただきたい。

<委員>

アンケートのボリュームが多すぎて、見ただけで嫌になる部分がある。例えば問28の選択肢も想像がつくような主語はカットするなどボリュームを減らしていく方が、量的な忌避感がなくなるのではないか。

色んなサービスを展開していると思うが、そういう展開しているサービスに自然に誘導できる質問や回答があればいいのではないか。今現在展開しているサービスに対しての意見、イメージがどういうもので、どう改善していくともっと利用が増えるのかという工夫に繋がるのではないか。

<事務局>

検討させていただく。項目の中には国が実施している質問から選択肢を選んでいる部分があり、比較できるのではないかということを入れている箇所もあるが、最後まで読み続けていただけるような形に何とか出来ればと思っている。

<委員>

アンケートの選択肢を10以下位にされると、見た感じとしても選択しやすいのではないか。実際回答してみると、誘導されているところやページを戻るところが嫌になるなど思う。項目がコンパクトになれば1ページに収まるのではないか。

問25番「地域活動に参加していますか」の選択肢に「今後参加したい」という項目を入れてもいいのではないか。

<委員>

問19番は他と比べて違和感がある。この設問だけ心理テストのように自分のことをどうみているかを聞いている。相対する項目をおいて信憑性をみる方法があるが、他のところとの関係がわかりにくい。この設問は必要だろうか。「自殺を考えたことがある」というような質問をするときは、「世の中から消えたいと思ったことがある」「命を絶ちたいと思ったことがある」など聞き方がある。もう少しアンケートの一つであることがわかるようにするのがいいのではないか。深さがないように思う。

<事務局>

問19番は、若者の現状を把握するという意味で設けている。具体的な経験や自身の状況について、感情を表に出すことが苦手だという回答・調査結果から、どう政策に繋げるのかという点になると、単純には繋がらない部分かと思う。課題抽出としては、反映してくると考えている。

こういった選択肢の中から若者の自己肯定感であったり、将来の希望であったり、閉じこもり傾向があるのかというようなことなどを見ている。同じような項目がいくつも重なっていくということで、回答に対する気持ちや内容は、再度検討させていただきたい。

<委員>

唐突にここに出てきているのもちょっと違和感があるので、並びも含めて検討いただきたい。

<委員>

未就学児童の保護者、小学生の保護者に聞く意味はあるのか。

<事務局>

こちらの計画自体が0歳から39歳までの計画を立てているため、未就学児童だと自分でアンケートに答えるのは難しく、未就学児・小学生は保護者の方に答えていただいて状況を把握していく予定でいる。

<委員>

基本的には問題のない方しか答えてくれない。問題を抱えた人はおそらく回答もしてくれない可能性がある。今相談にかかっている方についてはこのアンケートをベースに聞き取りしてもらえたらいいと思う。丁寧な情報収集をしてもらいたい。このアンケートだけでは全てを網羅するのは難しいということを念頭において進めて欲しい。

問20-7の「どのような状況になれば働こうと思いますか。」の設問に対し「リモートで働けるなら働きたい」などの選択肢を入れてはどうか。コロナになって社会の状況が変わってきたことが項目に反映されているのか。

<事務局>

この5年間で見直されていなかった部分なので、入れられないか検討する。

閉会